

地域包括ケアシステム (医療と介護の連携) —行政との連携進捗状況— 足利市医師会の取組みについて

福地医院 (足利市医師会) 福地 敏彦



はじめに

足利市では65歳以上の高齢化率が30%以上となり、効率的な医療・介護の体制をどう整えるかが課題となっており、自宅を中心とした地域での医療・介護の連携が推進され、医療や看護師、介護サービスが協力して地域の高齢患者をケアできる体制が不可欠であります。

医師会では平成28年度から在宅医療連携拠点整備事業に取り組んでおり、平成28年8月には医師会・歯科医師会及び薬剤師会からなる三師会で、新たに「粋生きあしかが連絡会」を設置し、三師会・24時間型対応型訪問看護ステーション・介護サービス関係事業者の代表及び行政とで定期的に協議を重ねながら、在宅医療と介護の連携を推進しております。

平成28年8月より現在までに「粋生きあしかが連絡会」が行った事業や活動、これからの取組みについてご紹介いたします。

1. 地域の医療・介護資源の把握について

平成28年度に在宅医療基盤調査を行い、7ヶ所の地域包括支援センター毎に各施設を地域分けし、市民向けガイドマップ (A4サイズ、16ページ) 2万部と専門職向けガイド冊子 (A4サイズ、88ページ) 7千部を作成しました。情報は足利市ホームページにも掲載し、ホームページ上での情報更新は一年毎を予定しております。

2. 多職種連携会議の開催について

「粋生きあしかが連絡会」を、平成28年度は4回開催し、平成29年度は平成29年5月・8月・11月・平成30年2月に計4回開催します。平成29年度は医師会・行政・訪問看護・介護支援連絡会によるワーキンググループを結成し、年8回の小委員会を開催します。

3. 切れ目のない在宅医療・介護連携体制の構築について

平成28年度に診療所と病院へ在宅医療提供のアンケート調査を行いました。アンケート結果より、地域における在宅医療のグループ化とグループ内での連携体制 (不在時のバックアップ体制等) を構築し、365日対応の在宅医療提供体制の推進を計画しております。平成29年年末年始に主治医不在時の連携体制モデル事業を実施し、今後更に多くの医療機関に参加協力頂けるよう、啓蒙活動を続けていきます。

4. 医療・介護関係者の情報共有の支援について

ICTを活用した「どこでも連絡帳」での連携を推奨しており、平成28年12月に研修会を開催しました。また、ICT以外の情報共有手段として紙ベースの連携連絡票を作成し、平成29年11月より試験運用、平成30年1月交流会にて最終仕様を検討します。

5. 在宅医療・介護連携に関する相談事業について

医師会内の在宅医療連携コーディネーター2名が活動推進業務を行っております。また、相談支援拠点のあり方を検討するため、粋生きあしかが連絡会委員が専用携帯電話での電話相談モデル事業を平成29年11月から2か月間実施し、相談内容や相談時間帯等を集計検討し、今後のワーキングで活用していきます。

6. 医療・介護関係者の研修の実施について

定期的に在宅医療への理解や医療介護スキルアップを目的とした研修会及び多職種交流会を開催しております。平成28年度は2回開催し、平成29年度は平成29年11月在宅医療に関する拠点事業研修会「多職種連携とこれからの取り組み」、平成30年1月にグループディスカッション形式の多職種交流会を開催します。

7. 地域住民への普及啓発について

平成28年12月から平成29年1月に市内7か所地域包括支援センターにて医師会会員による市民向け研修会「認知症ケアパスと地域医療」、各地域の民生委員や自治会長に対する説明会を開催しました。また、以前より医師会では市民向け公開講座を開催しておりますが、新たな試みとして平成30年2月市民演劇集団による寸劇を交えた脳梗塞と認知症の公開講座を計画し、現在準備を進めております。

おわりに

足利市は、群馬県・栃木県の県境に位置し、在宅医療も県境を越え行き来していることから、両毛医療圏としての地域連携が不可欠な地域でもあり、市内だけでなく県境を越えた協力体制の構築と連携のための話し合いを進めていく必要があります。

平成30年3月にて在宅医療連携拠点整備事業の主体は行政に移行しますが、「粋生きあしかが連絡会」では行政と協力しながら、地域包括ケアシステムの構築と地域連携に努めてまいります。